万葉の道

巻の一

明日香編

犬養 孝 監修
扇野聖史 著

『万葉読図』古代の道の新しい発見
地図で読む万葉の世界

歩くための万葉の本・万葉地図

犬養 孝 大阪大学名誉教授 甲南女子大学名誉教授 〈監修にあたって〉より

何といっても本書の最大の特色は、〝道〟にもとづいてつくられた前代未聞の精細な地図にある。……このような地図がまたとあるだろうか。地図を見ているだけで、それぞれの土地は、あざやかな立体感をもって、よみがえってくるのだ。

福武書店

万葉の道

犬養孝 監修
扇野聖史 著

福武書店

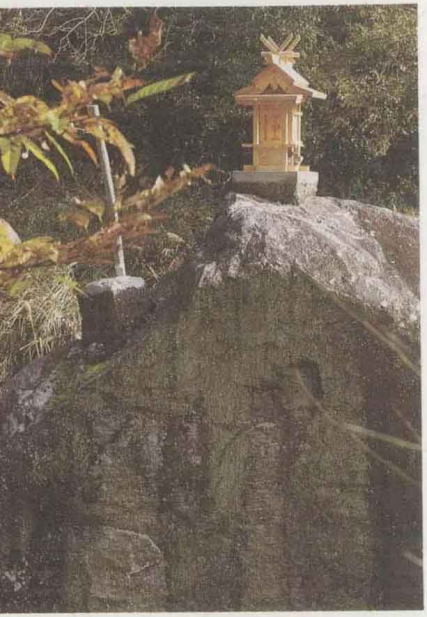
著者略歴
一九三二年千葉県船橋市に生る
大阪大学法学部卒業
現在　福徳相互銀行総合企画部部長
犬養　孝「大阪大学万葉旅行の会」会員
現住所／橿原市山の坊町五三〇番地
著書に『萬葉の道』（有文社）がある

万葉の道（全4巻）
巻の一　明日香編　©一九八一
定価二二〇〇円
昭和五十六年十二月十四日初版発行
昭和五十七年二月十日第二刷発行
監修者　犬養　孝
著　者　扇野聖史
発行者　福武哲彦
発行所　株式会社　福武書店
〒一〇二東京都千代田区九段南四―八―八
電話　東京（〇三）二三〇―二一三一（代）
〒五六〇大阪府豊中市寺内二丁目四番一号
電話　大阪（〇六）八六二―二五二五（代）
振替口座　大阪二―三一三二九四番
印刷＝凸版印刷株式会社
地図編集・製図・製作＝
㈲地図工房・青木伊太郎

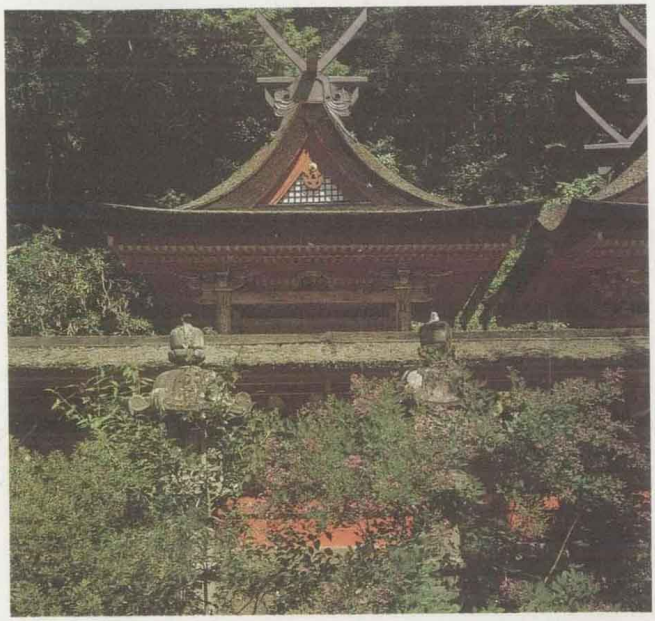
シリーズコード　ISBN4-8288-1019-6 C0392
巻の一コード　ISBN4-8288-1020-× C0392

この地図の作成に当たっては、建設省国土地理院発行の2千5百分の1、5千分の1国土基本図を使用しました。（測量法第30条に基づく成果使用承認　昭56近使、第26号）

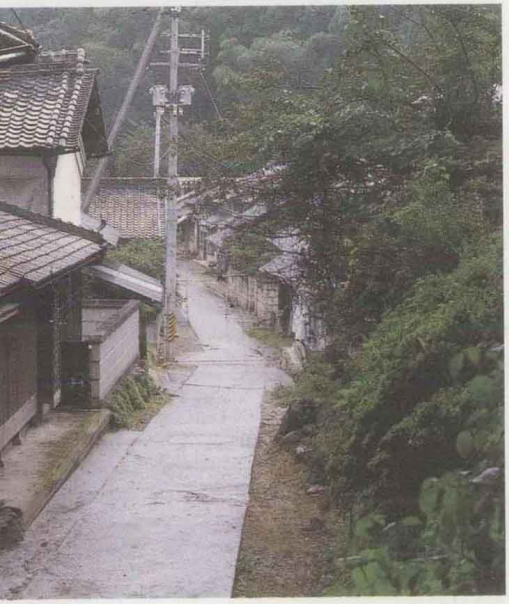
修理枝　化粧川付近 ——泊瀬の道



神の六社権現 ——泊瀬の道

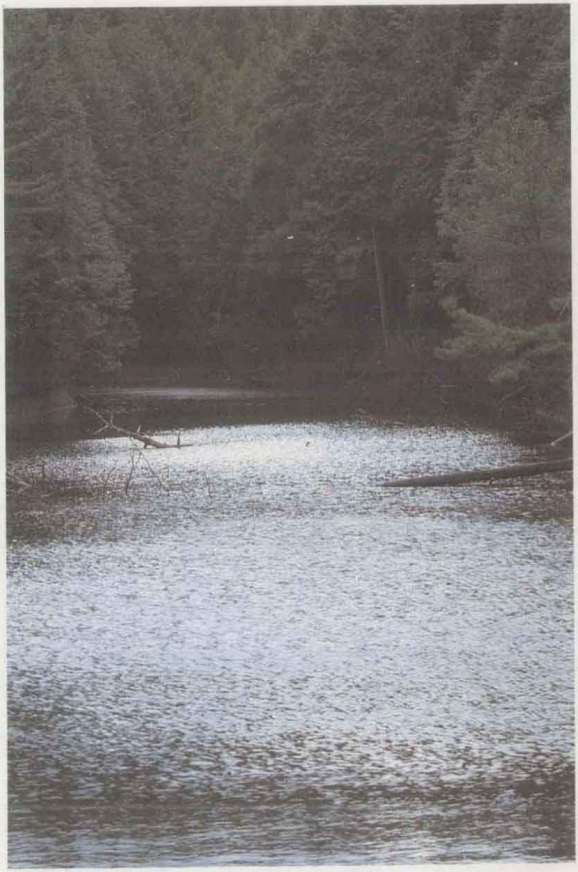


宇太水分神社 ——室生の道



喜浦の街道 ——泊瀬の道

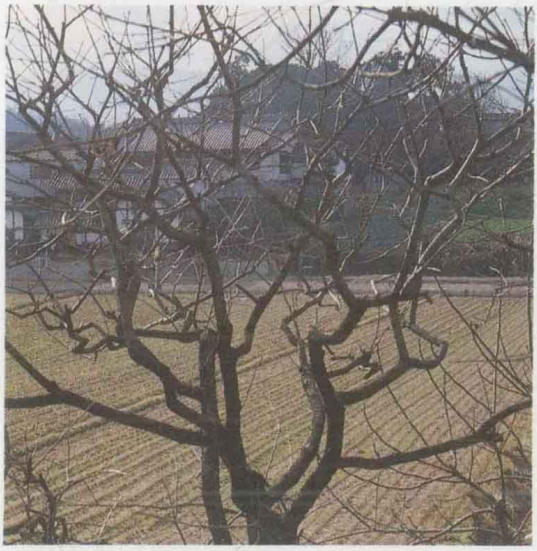
城門付近の古道 ——下つ道



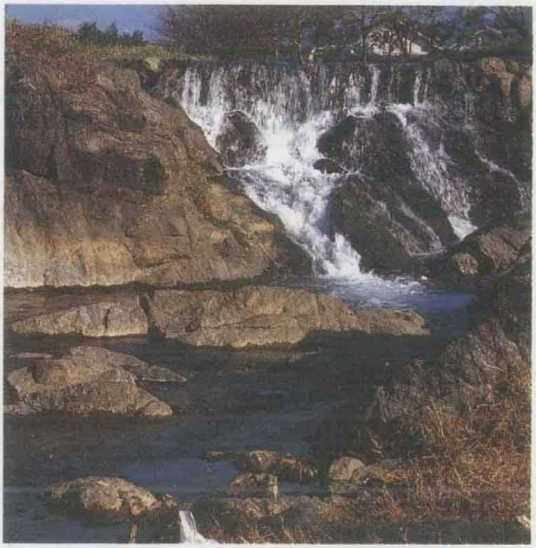
オカミ山池 ——泊瀬の道

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

雷丘 ——飛鳥の道

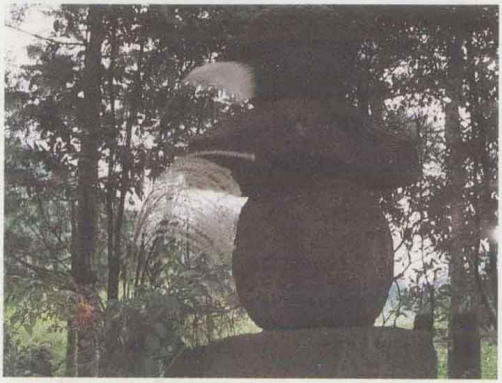


軽の村落 ——飛鳥の道



行き廻(み)る丘の明日香川 ——飛鳥の道

桧隈の杜 ——飛鳥の道



赤人墓 ——泊瀬の道

室生寺五重塔 ——室生の道

巻の一　明日香編

監修にあたって

大阪大学名誉教授
甲南女子大学名誉教授
犬養　孝

『万葉の道』の著者扇野聖史君は、大阪大学法学部在学中から終始、わたくしの講義をきかれ、わたくしの主宰する大阪大学万葉旅行の会の旅にも、絶えず参加して、カメラの撮影を得意とし、きわめて熱心な学生だった。卒業後は銀行員となって、現在はその枢要なポストで活躍しておられる。在学中の万葉への情熱は、ついに今日まで進展しつづけ、居も大和国原の中心耳成山麓に卜し、大和中をまさにくまなく歩いて、万葉ならびにその関係書を読破研究し、カメラもプロの域に達するにいたった。

扇野君が今日までの、永年の間の研究に加えて、大和を何度となく歩きつくした成果は、ついに今日の『万葉の道』四巻となって実るにいたった。本書は、著者が土に接してみずから歩いた体験に即し、万葉歌のあり方を、あくまでも〝道〟として〝線〟に沿うてとらえようとしたものである。

大和の各種の〝道〟は、古代万葉を中心に近代までにわたって広範囲に調査され、最近にまでわたる諸説の整理もゆきとどき、実地踏査の実体験にもとづいて歌の心をとらえ、最近の発掘調査の成果をも丹念に考慮して、しかも、文章は、平易でしたしみ易く、親切である。自信にみちて、時に断定をいそぐところがないでもないが、もともと好きで入ったこの道だけに、のびのびとした叙述からくる心たのしさがある。「乞食者の道」、「朱の道」、「鉄の道」などと

描く、著者の構想もおもしろい。

しかし、何といっても本書の最大の特色は、〝道〟にもとづいてつくられた前代未聞の精細な地図にある。市販の五万分の一の地図はまことに詳しいが、万葉故地をたずね、明らかにするには煩しい点もなくはない。本書の地図は著者自身がなんども歩きに歩いて、総計のべ七百余名の援助のもとに作製したものである。ごく微細な部分を拡大して、発掘現場や遺跡の位置はもちろん、コース案内、展望の場所、案内板のありか、タバコ屋や茶店、まがり角の家の名、さらに駐車場やトイレまでも記入されている。歩き易い説明もほどこされている。このような地図がまたとあるだろうか。これが大和の故地の全部にわたって行なわれているのが本書である。地図を見ているだけで、それぞれの土地は、あざやかな立体感をもって、よみがえってくるのだ。歳月がたって古くなっても、それはそのまま一九八〇年代を語る、またとない貴重な資料でもあるのだ。著者の〝道〟の論もさることながら、この地図から読者は汲めども尽きない示唆をうけるにちがいない。

著者扇野君の誠実無比の人柄と、古代万葉への深甚なる愛情のさせるところであるのはいうまでもないが、在野にあって、よくぞこれだけのことを完成して世におくってくれたと感嘆するほかはない。まさに〝前代未聞〟の本として著者ならびに援助者、また刊行者の福武書店にも感謝の意をおくりたい。かつ、学生時代の夢がみのった著者に祝福の意をおくる所以である。

はじめに

本書は『万葉読図』、あるいは少し古めかしく『万葉分間延絵図』と題してもいいと思う。つまり本書の生命は地図である。

わたくしが二十余年、大和万葉故地のフィールド・ワークを通して、体系的に「万葉の道」をとらえようとした作業工程の中から、ひとり歩きできるような精緻で楽しい万葉地図づくりを思いたって、すでに五年になる。外国にくらべて、日本の地図はわかりにくいといわれる。わたくしが大阪大学在学中、犬養孝先生の万葉旅行に参加し、現地講義をうけていたころには、地図の必要性など思いもしなかったが、学窓を離れ、万葉故地のひとり歩きをするようになってからは、五万分の一地図をたよりに現地を訪れることの難しさを痛感したものだ。ましてや古い地名や名もない古社寺、旧跡・伝説地といったたぐいは、次第に忘却される趨勢にある。また無謀な開発の波に、埋没していってしまうものもあった。

そんな体験が根にあって、たやすく万葉の原風景にふれ、まだ知られざる美しい万葉風土に接してもらえる地図づくりを思いたったのである。

本書は三巻を通して、約三百数十頁におよぶ地図で構成される。これを一般の解説書とちがって面としてとらえずに、線、つまり道の上に万葉故地をプロットして、万葉びとの移動にともなう文化史的背景を探ろうとした。そうした実験は、「巻の四」に試論として集約し、まとめる

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ことにした。

それにしても運命的なことをいうようだが、わたくしはつくづくよき理解者を周辺にもち得たと思う。本書は、わたくしひとりの力で到底作りあげられるものでない。原図製作は、永田佐氏がそれこそ全故地を踏破し、何十回も現地調査をしてしあげたものだ。これを助けて、わたくしの勤務する会社の人たち、甲南女子大の学生たちが協力し、作図に当たった。延べ総動員数は七百数十名におよぶ。現地に住む人たちの、親切な助力も忘れられない。

そしてわたくしたちアマチュアの情熱に共感し、出版プロデューサーとして奔走してくれた松田一二氏、この出版に快諾を与えてくれた福武書店の光吉真澄氏、そのスタッフの方々、これらの人たちのあたたかい支援なくして、本書は日の目を見ることはなかったはずである。最後に、みごとな手描きの地図をかいて下さった青木伊太郎先生との出逢いも、わたくしにとって幸せであったし、学恩うけた犬養先生の力強い励ましのお言葉は、わたくしのかけがえのない心の支柱でもあった。

これら多くの理解者・協力者に支えられて、みんなが手塩にかけて作った「巻の一」をこの世に送ることのできた喜びを、読者にすなおに伝えたいと思う。

『万葉の道』　巻の一　―明日香編―

目次

畝傍の道――巡遊伶人・乞食者の道――13

神社参道通り／卯名手の神奈備／標の山、畝傍／三山の歌／畝傍山麓めぐり／桜児の嘆き／久米・大伴のふるさと／軽の隠妻／歌をもち歩く人びと／柿本人麻呂と乞食者／乞食者の道／秋津洲のはじまり／ふたたび乞食者について

室生の道――朱の道・水銀の道――59

交易の里にある古社／丹生の王国／大神から高井まで／仏隆寺峠越えの道／荷坂の秘密／室生の毛桃／室生寺／水銀の神・水源の神／朱の道／大野

泊瀬の道――人麻呂かけ落ちの道――95

雨降る三輪の崎／泊瀬山辺の道／万葉開巻の地／隠口の泊瀬／もうひとつの朝倉宮／泊瀬の道／泊瀬の山と川／泊瀬の根源地／秉田神社／長谷寺／泊瀬斎宮の地／吉隠の雪／住坂／人麻呂かけ落ちの道／跡見万葉／榛原から山辺三へ／赤人伝説／大和の黄楊／都祁国の首都／処女の御井／波多の横山

竜田の道――桜咲く丘辺の道――167

鉄の道／嶽山の創祀地／小桜の嶺の桜／竜田山上の二つの風神／神降りの道／竜田風神の性格／万葉びとの記憶／竜田の神奈備／神奈備のスペースデザイン／竜田越え三路／万葉の竜田道／竜田の山越え／恐怖の坂道／毛無の岡・奈良思の岡／竜田のイメージ

斑鳩の道——聖徳太子葬送の道——203
因可の池／斑鳩の地相／創建法隆寺／斑鳩三塔をめぐる／霍公鳥の来鳴く丘／太子道と太子葬送の道／竜田万葉のコピー／片岡を歩く／片岡三陵

下つ道——二京を結ぶ縦貫の道——229
西大寺から菅原の里／菅原二陵／わたくしたちのギリシャ／秘められたエピソード／塔の見える池／東西の市／殖槻から郡山へ／下つ道のスタート／橋のある道／古代金属王国／道行き歌——坂手の歌／八木札の辻から今井町へ／耳成山麓をめぐる

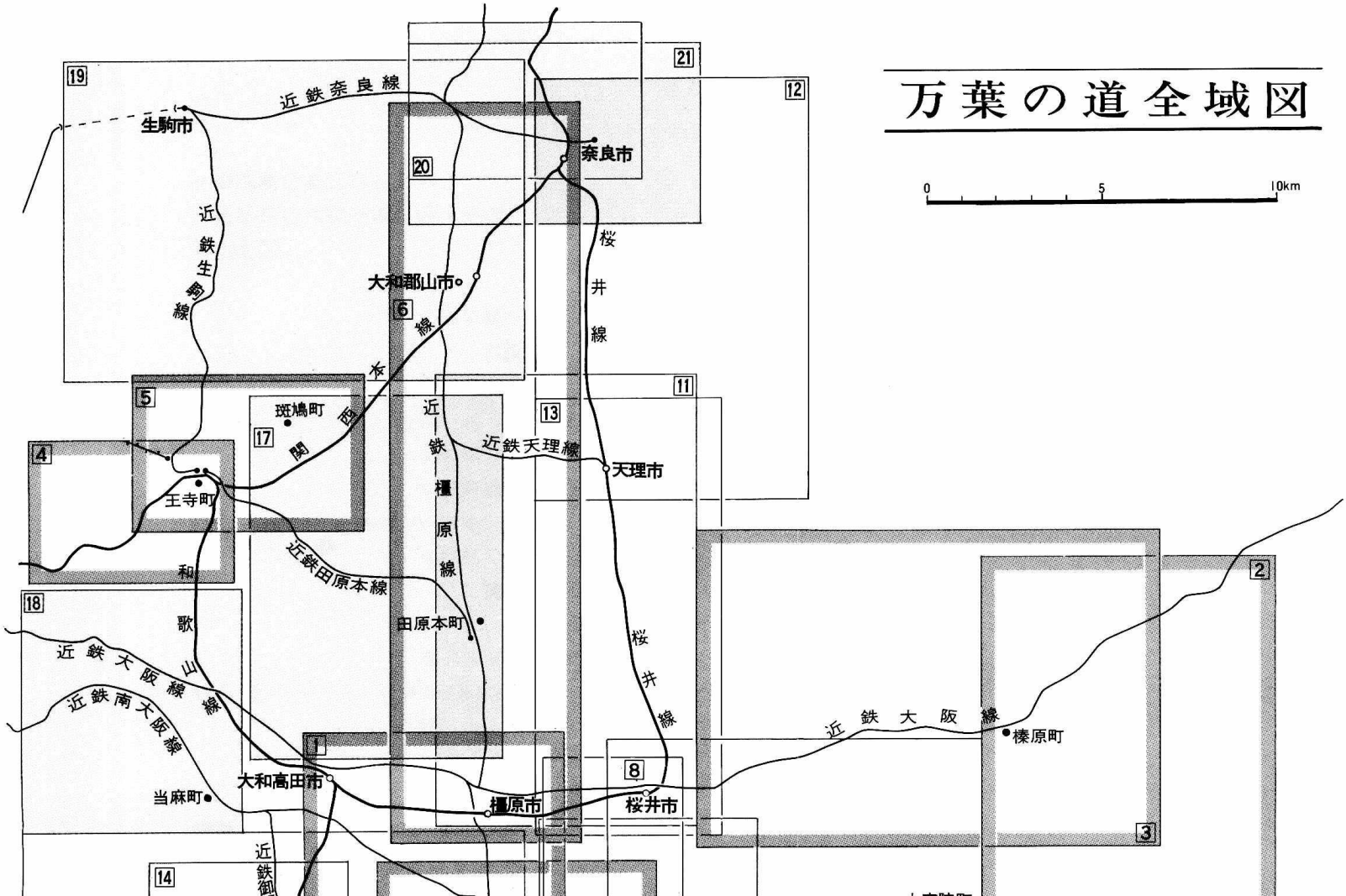
飛鳥の道——飛鳥びと哀歓の道——283
日本仏教濫觴の地／剣の池の瑞蓮／豊浦の里／豊浦から小墾田へ／浄御原宮跡／甘橿丘に登る／明日香川エレジー／古飛鳥と八釣／二つの岡本宮／大原の雪／巻二の歌語り／明日香の古き都／飛鳥の古き宮々／橘から島へ／吉野・多武への分岐／天武・持統合葬陵／文武陵から高松塚へ／桧隈の里／軽の古き宮々／人麻呂の妻たち／依羅娘子の不安／軽の妻は誰か

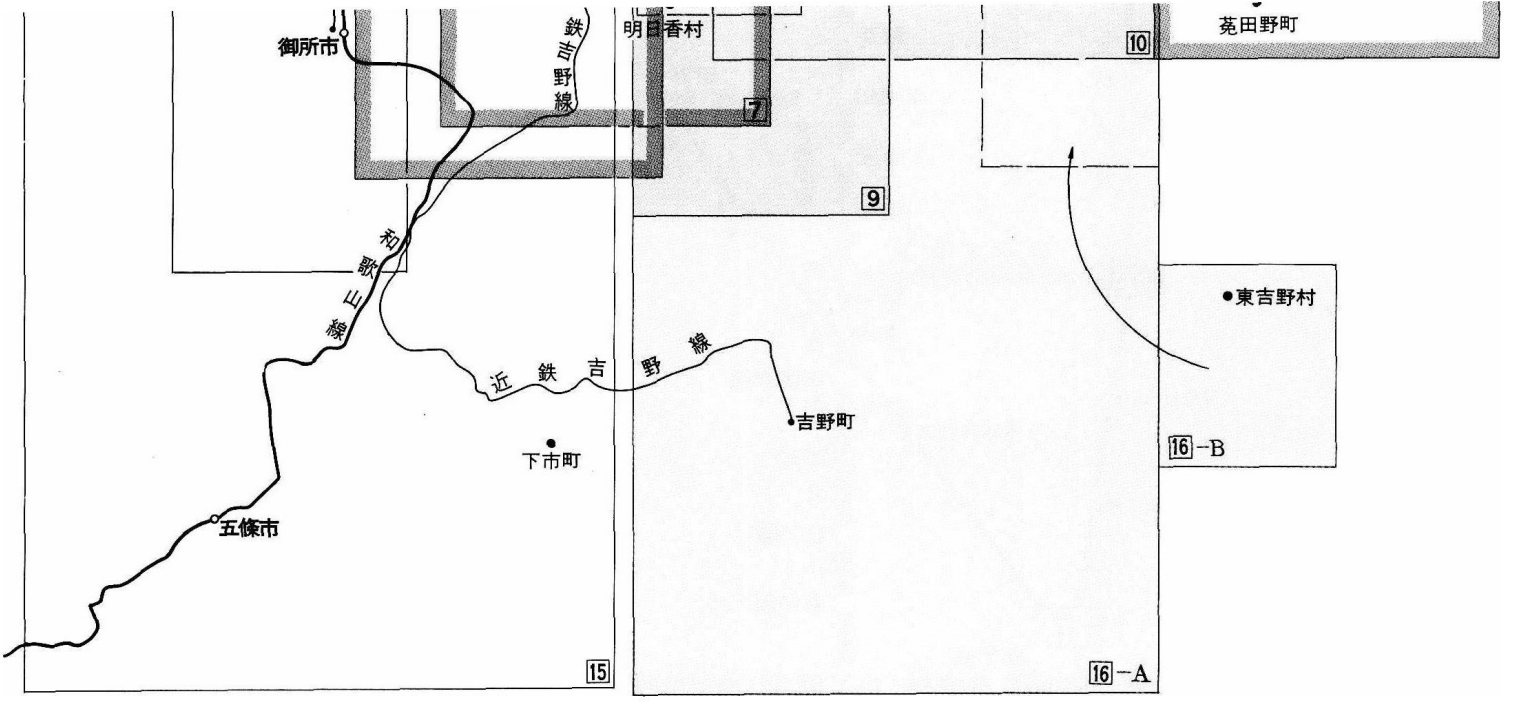
天皇系図

万葉時代の人物生没系図・年表

本書掲載の地図について

万葉の道全域図


0
5
10km
19
21
12
20
近鉄奈良線
生駒市
奈良市
近鉄生駒線
大和郡山市
6
桜井線
本線
5
斑鳩町
17
関西
近鉄橿原線
13
11
近鉄天理線
天理市
4
王寺町
近鉄田原本線
田原本町
18
和歌山線
近鉄大阪線
近鉄南大阪線
桜井線
2
近鉄大阪線
榛原町
1
大和高田市
当麻町
橿原市
8
桜井市
3
14
近鉄御



巻の一

- 1 畝傍の道
- 2 室生の道
- 3 泊瀬の道
- 4 竜田の道
- 5 斑鳩の道
- 6 下つ道
- 7 飛鳥の道

巻の二

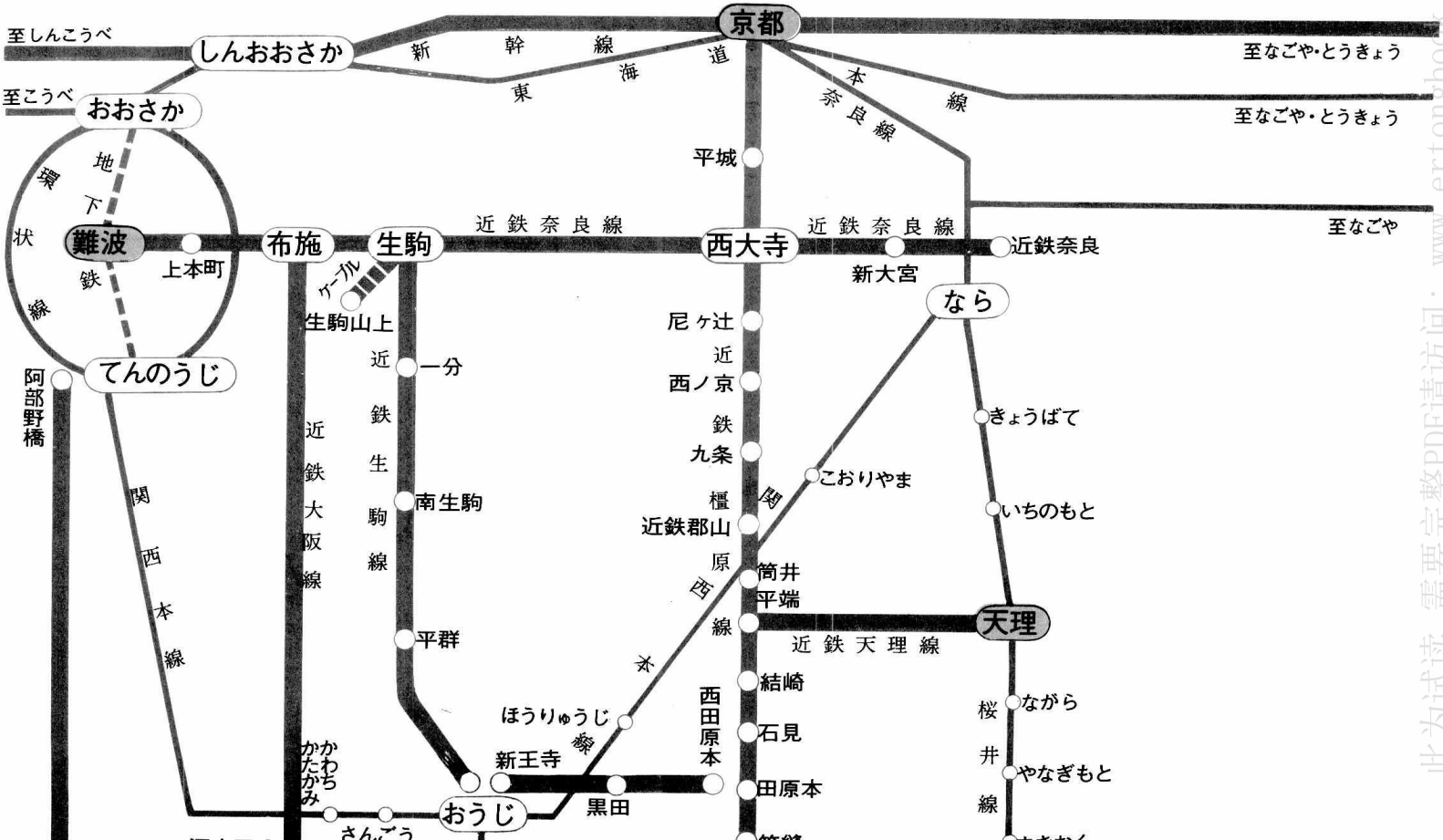
- 8 磐余・山田の道
- 9 多武の道
- 10 阿騎の道
- 11 中つ道
- 12 山辺の道(北)
- 13 山辺の道(南)
- 14 葛木の道
- 15 巨勢の道

巻の三

- 16 吉野の道
- 17 城上・三宅の道
- 18 竹内の道
- 19 生駒の道
- 20 佐紀・佐保の道
- 21 平城の道

BY CART. CHIZUKŌBŌ

交　通　図



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com